

# 平成19年度猪名川町中学校学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課教育支援室

## ■調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、領域・観点および小問ごとにその実態を分析することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。

## ■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

## ■調査対象

- 町内の公立中学校第2学年の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

## ■調査日

- 平成20年1月24日（木）

## ■調査結果

【中学校の調査結果】

**町内全体**

		正答率（％）		
		期待正答率	全国平均	調査結果（町）
中学校第2学年	国語	69.2	72.8	75.4
	数学	65.2	65.3	73.0
	英語	64.3	67.7	73.4

## ■中学校第2学年

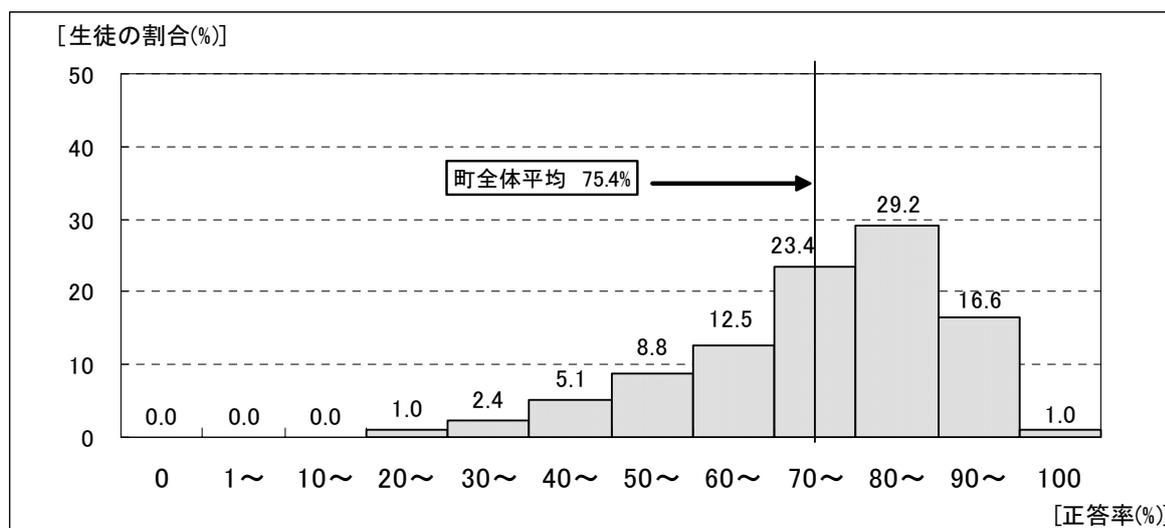
### 1 国語の正答率

期待 正答率	町全体
69.2	75.4

○中2国語の町全体正答率は75.4%で、期待正答率を6.2ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の 割合	0.0	0.0	0.0	1.0	2.4	5.1	8.8	12.5	23.4	29.2	16.6	1.0



○町全体では、正答率80%以上の生徒が46.8%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が8.5%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
期待正答率(%)	75.0	67.0	69.0	68.3
町全体正答率(%)	75.7	80.3	67.7	79.7
差(%)	0.7	13.3	△1.3	11.4

##### ①話すこと・聞くこと

期待正答率75.0%に対して正答率は75.7%で、0.7ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問1(1)の発言者の立場と理由を聞き取る問題では、正答率が58.0%と期待正答率を2.0ポイント下回り、(2)の発表の仕方の工夫についても、正答率が64.7%と期待正答率を5.3ポイント下回った。一方、(4)の自分の意見と理由を書くところでは、正答率は96.8%と期待正答率を11.8ポイント上回った(中間点を含む)。

今回の聞き取りのテーマは、生徒に身近な「携帯電話の所持の是非」であるので、意見発表の流れをある程度予想しながら聞けるとよい。また、発表の仕方を意識して聞くことも大切である。

## ②書くこと

期待正答率67.0%に対して正答率は80.3%で、13.3ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

決められた字数内で書くことの正答率は80.0%で、期待正答率を15.0ポイント上回っている。また、三段落構成を考えて書くことの正答率は73.1%と、期待正答率を8.1ポイント上回り、第1～第3の各段落でも必要な事柄を書くことはできている。今後も、段落意識を持って書くことを継続的に指導したい。

## ③読むこと

期待正答率69.0%に対して正答率は67.7%であった。1.3ポイント下回っているものの、おおむね満足できる状況であると判断できる。

大問2の説明文では、各問の平均正答率が63.0%と、期待正答率を2.8ポイント下回った。小問ごとに見ていくと、(1)の文章の展開をとらえて文を挿入する問題では、正答率が69.5%と期待正答率を10.5ポイント下回った。また、(3)の文章の展開に即して内容をとらえ記述する問題では、2問中1問が期待正答率を12.7ポイント下回り、37.3%の正答率となった。文章の論理の展開をきちんと理解できていない生徒が多かったようである。

大問3の文学作品の読み取りでは、各問の平均正答率が74.7%と期待正答率を0.9ポイント上回った。(2)の心情を押さえて適切な箇所に一文を挿入する問題では、正答率は91.2%と期待正答率を6.2ポイント上回ったが、(4)の表現の仕方や文章の特徴に注意して読む問題では、正答率は57.6%と期待正答率を2.4ポイント下回った。言葉の使い方や表現の工夫にも着目した上で、物語を読むように指導したい。

## ④言語事項

期待正答率68.3%に対して正答率は79.7%で、11.4ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

文法の正答率は、大問4(1)の主語と述語の関係についての問題で86.8%、(2)の自立語と付属語についての問題で66.8%と、いずれも期待正答率を10ポイント以上上回った。また、語句に関しては、大問5(1)の類義語の問題では、正答率は92.9%と期待正答率を12.9ポイント上回ったが、(2)の同訓異字の問題では、正答率は54.2%と期待正答率を5.8ポイント下回った。

漢字の読みについては、各問の平均正答率は85.4%と、期待正答率を6.6ポイント上回った。書きについても、平均正答率は78.4%と、期待正答率を18.4ポイント上回った。漢字の読み書きともに、満足できる状況である。

## (2) 観点ごとの分析

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
期待正答率(%)	71.0	75.0	64.6	69.0	68.7
町全体正答率(%)	85.1	75.7	75.0	67.7	79.4
差(%)	14.1	0.7	10.4	△1.3	10.7

### ①国語への関心・意欲・態度

期待正答率71.0%に対して正答率は85.1%で、14.1ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

ただし、無解答率が、話すこと・聞くことの自分の考えを書くところで0.3%、説明文の読み取りの記述のところで9.2%と13.2%、作文のところで5.4%であった。昨年度と比べると全体に増加しており、説明文の読み取りの記述で2.7ポイントと5.8ポイント、作文で2.5ポイント、無解答率が上昇している。これは、生徒が難しい問題に取り組むことに対して、抵抗感を感じていることの表れとも考えられる。書く機会を授業の中に取り入れ、まず自分なりの答えを書く習慣をつけさせたい。

## ②話す・聞く能力

期待正答率75.0%に対して正答率は75.7%で、0.7ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

聞き取りの問題では、まずどのような場面で、何について話し合うのかを押さえる必要がある。その上で、誰が、どのような立場で、どんなことを言ったのかを的確に聞き取ることが求められる。繰り返しの学習の中で、効果的なメモの取り方について指導したい。

また、話し方の工夫については、国語の授業にとどまらず、日頃の話し合いや帰りの会などの機会も活用して、折に触れて指導することが大切である。

## ③書く能力

期待正答率64.6%に対して正答率は75.0%で、10.4ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

作文問題では、三段落構成で、基本的な説明文や意見文をきちんと書けることが基本である。段落指導とともに、原稿用紙の使い方についても確認しておく必要がある。

また、このようなグラフなどから読み取る問題は、PISA型「読解力」を身につけさせるという視点からも、今後さらに重視されていくと考えられる。文章だけでなく、図や表、グラフなどさまざまなテキストを題材として取り上げていきたい。

## ④読む能力

期待正答率69.0%に対して正答率は67.7%であった。1.3ポイント下回っているものの、おおむね満足できる状況であると判断できる。

説明文では、筆者の考えが述べられているところやキーワードに線を引きながら読むことを習慣づけた。そうすることで、難しい文章でも理解がしやすくなる。

文学作品については、心情・情景などの説明や描写、比喩などの表現に注意しながら読めるようにしたい。朝読書などを通して、さまざまな作品に触れさせることが大切である。

## ⑤言語についての知識・理解・技能

期待正答率68.7%に対して正答率は79.4%で、10.7ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

言語事項は、知識を与えるのではなく、実際の言語活動の場面を想定して指導することが大切である。例えば言葉や漢字の指導では、単語のみを取り上げるのではなく文や文章の中で取り上げ、その文脈の中でとらえさせる必要がある。また、辞書を活用し、単語の意味や関連する熟語なども調べさせたい。

## ■中学校第2学年

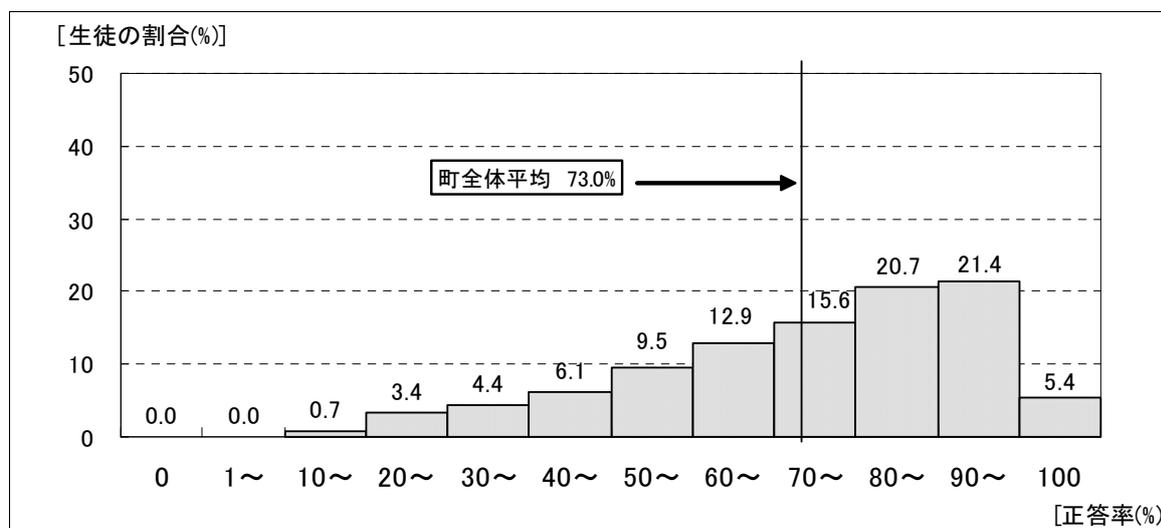
### 2 数学の正答率

期待 正答率	町全体
65.2	73.0

○中2数学の町全体正答率は73.0%で、期待正答率を7.8ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の 割合	0.0	0.0	0.7	3.4	4.4	6.1	9.5	12.9	15.6	20.7	21.4	5.4



○町全体では、正答率80%以上の生徒が47.5%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が14.6%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	数と式	図形	数量関係
期待正答率(%)	68.6	61.3	64.5
町全体正答率(%)	79.1	68.5	70.2
差(%)	10.5	7.2	5.7

##### ①数と式

期待正答率68.6%に対して正答率は79.1%で、10.5ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

ただし、大問1(3)の単項式どうしの乗除の混じった問題では、正答率は期待正答率を1.4ポイント上回るにとどまっている。計算の過程では、文字が1つの乗法と除法、文字が1つで指数のついている乗法と除法などに分けて練習させる必要がある。

##### ②図形

期待正答率61.3%に対して正答率は68.5%で、7.2ポイント上回っている。満足できる状況であると判断

できる。

しかし、大問11の証明の間違いを指摘し、その理由を明らかにする問題では、正答率は期待正答率を上回っているものの、誤答率が50%を超えている。

間違いの箇所は、証明の過程で誤って結論を使ってしまっている点である。仮定・結論・証明の位置づけを確認し、根拠を明確にしていくことが大切である。

### ③数量関係

期待正答率64.5%に対して正答率は70.2%で、5.7ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問5(1)では、 $x$ の増加量4を $x=4$ として $y$ の値を求めた誤答①の出現率が24.1%（正答率59.0%）と高いことから、増加量についての理解を深める必要がある。

また、大問8の動点のつくる図形の面積変化を式に表す問題では、誤答④の出現率が25.8%と高いが、これは $x$ 項の部分÷2していないものである。面積の考え方自体は、大半の生徒はできていることから、計算の過程で間違えないようにしたい。

## (2) 観点ごとの分析

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
期待正答率(%)	45.0	58.2	66.5	67.1
町全体正答率(%)	47.3	64.3	75.5	74.1
差(%)	2.3	6.1	9.0	7.0

### ①数学への関心・意欲・態度

期待正答率45.0%に対して正答率は47.3%で、2.3ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

ただし、大問9(4)の自分の考えを文章にまとめさせる問題では、無解答率が13.6%に達する。形式的な計算指導にとどまらず、生徒一人一人に考えさせる授業展開が必要である。生徒の学習意欲を向上させ、無解答率を減らすことが、正答率全体を押し上げることににつながる。

### ②数学的な見方や考え方

期待正答率58.2%に対して正答率は64.3%で、6.1ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問9(4)では、無解答率が13.6%と全ての問題の中で最も高いこと、また、大問11では誤答率が51.2%と高いことから、自分の考えを言葉で表現したり、証明の根拠を明らかにしたりすることが苦手な生徒が多いと言える。

授業の中で、生徒に自分の解答を説明させたり、グループ学習を通して、生徒同士の教え合いや意見交換を活発にさせたりするなど、数学的なコミュニケーション能力を高めていくことが大切である。

### ③数学的な表現・処理

期待正答率66.5%に対して正答率は75.5%で、9.0ポイント上回っている。満足できる状況であると判断できる。

ただし、大問10(4)では、二等辺三角形の2角が等しくなる性質が十分に活用できておらず、無解答率も5.8%とやや高い。この問題では、2つの二等辺三角形が組み合わさっているが、等しくなる角に印をつけたり、図形を他の角度から見て考えたりすることを習慣づけたい。

### ④数量、図形などについての知識・理解

期待正答率67.1%に対して正答率は74.1%で、7.0ポイント上回っている。満足できる状況であると判断

できる。

特に問題となる点は見あたらないが、「知識・理解」では、単なる知識としてではなく、思考活動に生きて働く知識として身につけさせることが大切である。例えば、比例と反比例の違いを言葉、表、式、グラフなどで表現させるような学習を取り入れたい。

## ■中学校第2学年

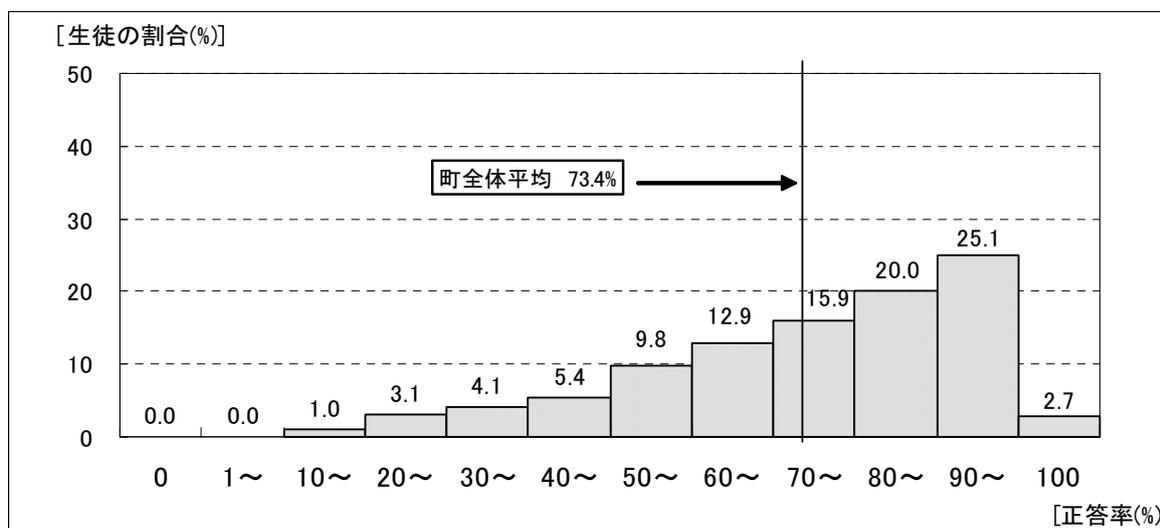
### 3 英語の正答率

期待 正答率	町全体
64.3	<b>73.4</b>

○中2英語の町全体正答率は73.4%で、期待正答率を9.1ポイント上回っている。

**町内全体**

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の 割合	0.0	0.0	1.0	3.1	4.1	5.4	9.8	12.9	15.9	20.0	25.1	2.7



○町全体では、正答率80%以上の生徒が47.8%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が13.6%存在する。

#### (1) 領域ごとの分析

	聞くこと	読むこと	書くこと
期待正答率(%)	74.0	64.4	53.3
町全体正答率(%)	<b>80.3</b>	<b>72.4</b>	<b>67.7</b>
差(%)	<b>6.3</b>	<b>8.0</b>	<b>14.4</b>

##### ①聞くこと

期待正答率74.0%に対して正答率は80.3%で、6.3ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問2(3)において、正答率が期待正答率を8.3ポイント下回っている。まずはキーワードをもとに、何についての話なのかを聞き取ることが必要である。summer、visit、Chinaなどの単語から、全体の話を推測できるようにしたい。

また、正しい選択肢を選ぶには、時制を聞き取ることも求められる。未来、過去、現在などの表現を正確につかむことが大切であり、this summerなどの表現がポイントとなる。

## ②読むこと

期待正答率64.4%に対して正答率は72.4%で、8.0ポイント上回っている。満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問3（1）（3）（5）において、正答率が期待正答率を5ポイント以上下回っている。

問題文は、家族でニューヨークに移住する話であるが、文中に月を表す表現が数力所出てくるため、混乱しやすい。時間の経過をメモし、話の流れを整理しながら読んでいくとよい。中でも（5）はやや細かいことを問うており、間違いやすいところである。一つ一つ問題文の内容と照合し、誰についての記述なのかを確認しながら、正しく解答できるようにしたい。

## ③書くこと

期待正答率53.3%に対して正答率は67.7%で、14.4ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

しかし、大問7（1）において、正答率が期待正答率を10ポイント以上下回っている。

書く力をつけるには、ある状況の下でどのような英語を作ればよいのかを学ばせることが大切である。問題のような条件英作文については、授業中のコミュニケーション活動の中で、定型表現を繰り返し使わせ、定着を図るのが早道である。例えば、ペーパーをつくり、お互いに質問し相手に答えさせたり、任意の1文をきっかけに会話を継続させたりする活動が有効である。

## （2）観点ごとの分析

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
期待正答率(%)	65.6	53.8	70.0	58.6
町全体正答率(%)	73.2	65.7	76.3	74.4
差(%)	7.6	11.9	6.3	15.8

### ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

期待正答率65.6%に対して正答率は73.2%で、7.6ポイント上回っている。満足できる状況であると判断できる。

しかし、リスニングパートの大問2（3）、およびライティングパートの大問7（1）において、正答率が期待正答率を下回っている。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度は、授業の中にコミュニケーション活動を取り入れている程度に大きく関わっている。スキットやスピーチは、自分自身の事柄を英語で表現し、アウトプットできる有効な手段であるので、積極的に取り入れていきたい。単なるドリル演習や問題演習に終始するのではなく、練習したものがコミュニケーションの道具として使えることを意識させることが大切である。

### ②表現の能力

期待正答率53.8%に対して正答率は65.7%で、11.9ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

しかし、ライティングパートの大問7（1）において、正答率が期待正答率を下回っている。

書く力を伸ばすには、日頃から書く練習を積ませることが不可欠である。毎回の授業では、復習を兼ねて教科書のキーセンテンスを書かせたり、ディクテーションを行ったりするなど、1～2文でもよいのでこまめに書かせることが大切である。

ただし、授業中だけでは、書く時間を十分に確保するのは難しい。日記やスピーチ原稿を書かせるなど、家庭での課題を課すことも必要である。

### ③理解の能力

期待正答率70.0%に対して正答率は76.3%で、6.3ポイント上回っている。おおむね満足できる状況であると判断できる。

しかし、リスニングパートの大問2(3)、およびリーディングパートの大問3(1)(3)(5)において、正答率が期待正答率を下回っている。

一般的な理解の能力を伸ばすためには、教科書の題材に繰り返し触れさせ、生徒の理解を確実にしながら授業を進めていくことが大切である。新しい題材を導入する際には、英語（または日本語）によるQ—Aを取り入れるとよい。また、復習の材料として、前学年で使用した題材を活用するのも方法である。

#### ④言語や文化についての知識・理解

期待正答率58.6%に対して正答率は74.4%で、15.8ポイント上回っている。十分に満足できる状況であると判断できる。

該当するすべての小問が期待正答率を5ポイント以上上回っており、特に問題となる点は見あたらないが、一般的な言語知識に関しては、単語テストや文法テストをこまめに実施し、定着を図ることが必要である。話す（発音する）、聞く、書くなど、さまざまな方法を使って習得させるとよい。